

私の一文字「柔」

副代表幹事
遠藤 信博

日本電気
取締役会長



「強い意志」と「柔らかな心」

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、遠藤信博副代表幹事にご登場いただきました。

岡西 「柔」という漢字の起源はいくつかあります。一つは矛の柄に使える弾力のある木を意味する説。もう一つは漢字の原型をとどめていないのですが、神前にお供えをし、神様の前で踊り神様の気持ちを柔らげるという意味合いがあるという説です。遠藤さんは価値創造の心構えとして、「強い意志」と「柔らかな心」が基本と説いておいでです。

遠藤 事業部長になった2003年ごろから使い始めました。プロジェクトの遂行では、戦略をいくら練っても常に思い通りになるとは限らず、そのプロジェクトが人間社会に提供する価値を理解して、それをやり遂げたいという強い意志を持たないと、最終的に価値を創り上げることはできないと感じました。その途上で難局を乗り越える際には、いろいろな意見を素直に受け入れる柔らかな心、例えば、花を見て美しさに感動するような心の柔らかさも必要と思いました。「強い意志」と「柔らかな心」の二つは、大きな物事を成す上での基本的かつ必須の要素だと思っています。

岡西 その境地に至ったのは何か理由があったのですか。

遠藤 役職が上がると、多くの人に共通の理解をしてもらわなくてはなりません。要は、事の本質に近づくことが必要です。課長のときは課の真実で皆さんが理解できますが、部長になると課の真実では通用せず、より事の本質に近づいた話が必要です。社長になると、NECでは国内外10万人を相手にグローバルな視点を含めた話が必要で、日本の事情だけでは通用しません。グローバルな視点とは、より人間の本質を見据えることです。会社のある部分だけを見て話をしても、ある人は「それは私に関係ない」と耳

を傾けない。聞く人が納得して自分のものにしようと思わなければ、話をする意味が薄れます。最も気を付けなければならないのは、話の軸がブレないことです。それが本質に近づくことだと思って努力しています。

岡西 遠藤さんは人間の本質についてよくお話しされていますが、幼い頃から考えていらしたのですか。

遠藤 私は末っ子だったので、どのように振る舞うと自分も姉みたいに扱ってもらえるかを観察していたように思います。人間はどんな状況でどんな判断で行動するのか、人の心と行動のダイナミクスに興味を持つようになりました。歴史上の人物や過去の経営者の行動には共通するものがあり、人間や人間社会の本質が見えてきます。私自身もそれに近づくことで、倫理観や判断基準の幅を広げたいと思っています。

岡西 経済同友会でのご活動はどのように考えていますか。

遠藤 私は「企業経営委員会」の委員長をしています。人間の理解こそ、人間社会の持続性に対して価値貢献をする企業の基本だという観点から、「人間の本質に近づく」をテーマに活動を始めています。企業は人間社会が今まで創り上げてきた文化を含めた価値を受け取り、それをベースに人間社会の持続性に価値創造で貢献し、いかに企業の継続に努力するかだと思います。経済同友会の活動目的は、企業にかかわる一人ひとりがどのような努力をするかであり、皆さんと「強い意志」と「柔らかな心」を共有しながら、考えていきたいと思っています。

書家

岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

